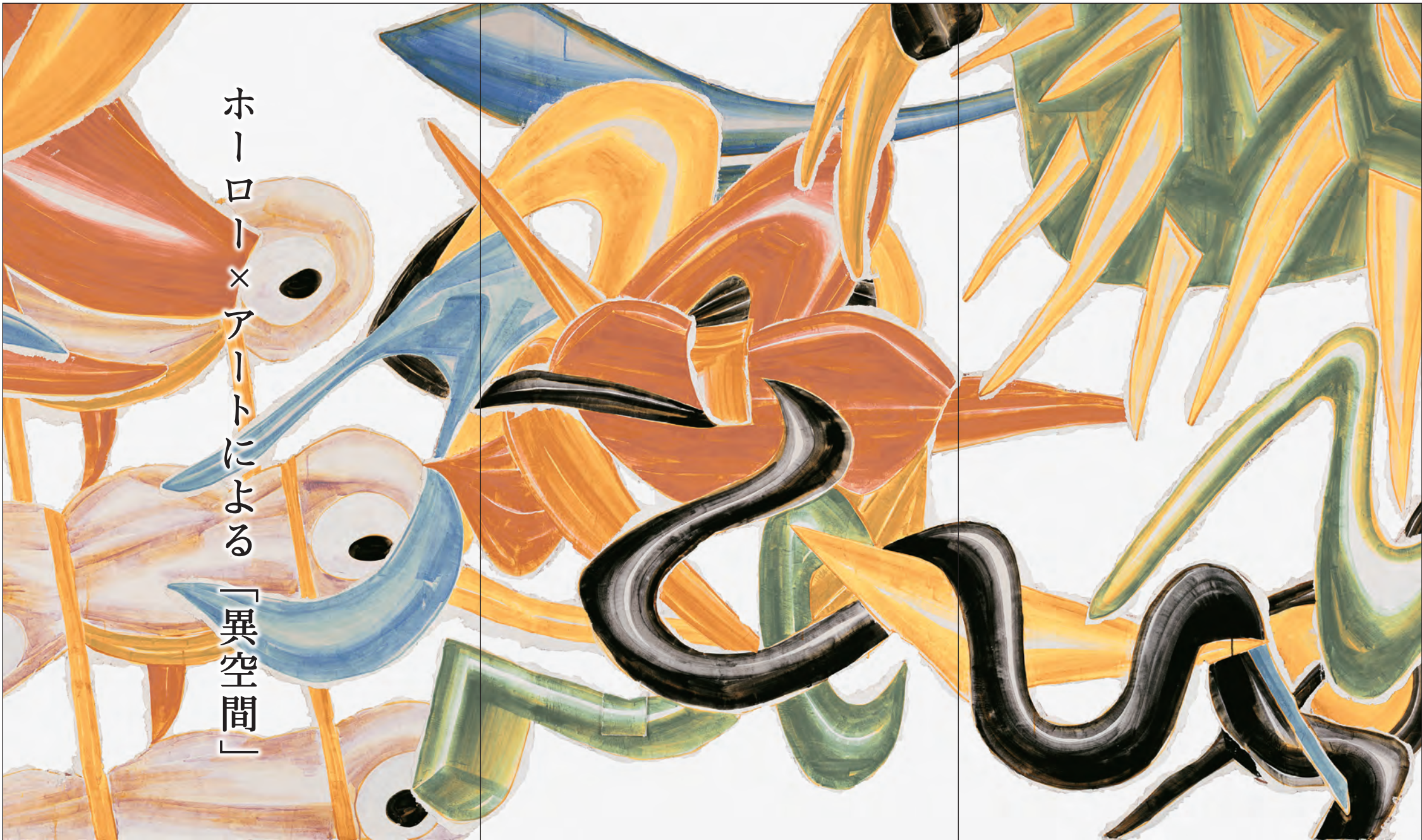




ホーロー×アートによる「異空間」

Takara standard

川田知志 × タカラスタANDARD

ホーロー × アート プロジェクト
@ Osaka Art & Design 2025 in 高島屋

■展示期間：5月28日(水)～6月17日(火)

■展示場所：6階 POP UP STATION [6F1]

**Osaka
Art & Design
2025**



作品詳細についてはコチラ

ホーロー × アートプロジェクトとは？

タカラスタンダードは、アーティスト支援による社会貢献活動と当社の独自素材「高品位ホーロー」の新たな価値創造を目的として、2022年8月に「ホーロー × アートプロジェクト」を発足しました。アーティストの方とのコラボレーションによって当社にはない発想やチャレンジが生まれること、それによってホーローの可能性がこれまで以上に広がることを目的に、さまざまな取り組みを行ってきました。プロジェクトの活動の一環で昨年は、大阪の生命力溢れる街で、個々の力が相互に作用し、思いがけない化学反応（シナジー）を引き起こすことを目指すという「大阪アート&デザイン」の思いに共感し、当社として初めて同イベントに出展。「ホーロー × アートプロジェクト」発足時から共同制作を行っている川田知志と制作した種々のホーローアート作品を高島屋大阪店にて展示しました。



OAD2024 にて展示したホーローアート作品
《Untitled》(2022) 撮影：表恒匡

展示作品について

川田が2023年に滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリーで制作したフレスコ画《太郎の色とカタチ × パブリック》を原画に、ホーロー素材でリメイクした新作を展示しています。デジタル化した原画の一部を原寸大でインクジェット印刷し、さらに厚みのある「カキトリ」を施しホーローパネルに焼き付け、幅10m、高さ2m40cmのアーチ状の作品に仕上げました。タイトルにある「太郎」とは、芸術の大衆化を目指し、1950年代よりパブリックアートや量産品プロダクトのデザインを精力的に手掛けた岡本太郎氏を表しています。川田は岡本太郎氏の仕事や建築とアートとの関連性を考察しながら、アーチ状のギャラリー空間を活かしフレスコ画で本作を描きました。この度のホーローによる新作展開は、ホーローならではの加飾技術の更新だけでなく、産業と美術の関わりをさらに深める共同制作です。なお、本作のフレスコ原画は、OAD会期と同期間に船場エクセルビル（「Re:Human — 新しい人間の条件」、大阪市内）で展示されています。川田のユニークで多面的な作品表現をぜひ両会場でご鑑賞ください。



川田知志 《太郎の色とカタチ x パブリック》
(2023、滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー) 撮影：表恒匡

現代美術作家 川田 知志 プロフィール

1987年大阪府生まれ。2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。2019年京都市芸術新人賞、2025年第43回京都府文化賞奨励賞、第2回絹谷幸二芸術賞大賞を受賞。大学でフレスコ画を学び、伝統的な絵画技法と現代の造形素材を織り交ぜた独自の制作手法を探索しながら、都市の風景を記憶する壁画表現に取り組む。公共空間を発表の場で大規模なインスタレーションを展開し、企業や商業施設における委託制作も手掛ける。2022年よりタカラスタンダードとホーローを用いた作品制作や素材研究を始め、2023年にインクジェット印刷と「カキトリ」を取り入れた全幅7.7mのホーロー壁画《松柏仁習 Learning from evergreens》を当社京都支店のエントランスに恒久展示している。（協力：アートコートギャラリー）



京都支店に恒久展示された《松柏仁習 Learning from evergreens》(2023)

Contact

ご意見・お問い合わせはコチラ
(QRコードを読むとメールが起動します。)



タカラスタンダード
emawall@takara-standard.co.jp